

## 京都市立音羽小学校 平成26年度 学校教育目標

教育とは、人を育てることを通して未来の世界構築に貢献する素晴らしい活動である。人類の歴史を見ても、教育は社会の進歩に対して大きな役目を担ってきた事がわかる。

しかし、現在、教育界は大きな課題を抱えている。ひとつは「教職員の大量退職・大量採用による次第送り問題」である。そして、もうひとつは「未知の課題に対して主体的に向き合い解決していける次世代の子ども達の育成」である。

この大きな課題を解決するためには、これまでの学校教育の進め方を大きく変える必要がある。実は、この二つの課題には共通点がある。児童と大人である教職員という違いはあるが、いずれも「未知の課題に対応し解決していける人物・集団を育てなければならない」という点では共通である。そのため、「主体的に課題に取り組む人物」「自己を客観的に捉えることができる人物」「自己を計画的に教育できる人物」「目指す目標を具体的で明確な言語で表現し意識づけることができる人物」「困難にあたってもあきらめず何とかして先に進もうとする人物」「自分達だけでなく次の世代を育てようと働きかけることができる人物」「育てるシステムを確立することができる人物」を育てる事を目指して方向転換をする必要がある。

このような状況の中で、平成25年度、音羽小学校は新たな取組に挑戦した。それは、「学校教育目標の再構築」である。この取組のために、まず教職員集団の意識改革を図ると共に主体的な活動の場を設定した。「昨年度までの考え方にとらわれず、子ども達の実態をしっかりと分析し、ゼロからスタートしよう」「我々教職員も子ども達も、分かりやすく覚えやすい学校教育目標を作ろう」「教員だけでなく全ての教職員で考えを出し合い作っていこう」というスローガンの下、話し合いを重ねていったが、この過程を通して、教職員自身も育つことができてきている。「音羽小学校の子ども達の実態はどうか」「これからの音羽小教育には何を取り組めばいいのか」「音羽小学校では、どのような子ども達を目指していくべきか」など、これからの方向を教職員全員で前年度末から新年度にかけて何度も話し合った。

そして話し合いは、音羽小学校の校章に込められた三つの言葉、「勇」「仁」「智」にたどりついたのである。この言葉は、音羽小学校の校章の三枚の鷹の羽根に込められた願いであり、言い換えれば、「勇」は場の状況を読みながら自分なりの意味づけをし自己決定して行動しようとする主体性、「仁」は人への思いやりの心をもちながら行動したり状況に合わせておりあいをつけたたりしていくという社会性、「智」は学んだことを常にふり返りつつ自分を育てる力につないでいき常に前進を目指す創造性、である。このような姿を音羽小学校の「目指す子ども像」としていこうと話し合いがまとまっていった。その新しい学校教育目標は、「すすんで（勇）・なかまと（仁）・よりよく（智）・生きる子」である。この学校教育目標は、まさに未来を生き抜く子ども達の姿であり、未来を作り上げる教職員の姿でもあった。

これから未来を生き抜く子ども達は、我々大人が生きている世の中とは違う世界で生きていくようになるだろう。今の子ども達が、我々と同じ世代になるには、およそ25年から30年ほど年月が必要である。その頃の世界はどんな世の中だろうか。

過去を振り返ってみれば、今から25年から30年前は、日本がバブルの時代だった。ソビエ

ト連邦という国が存在していた。携帯電話は一部の人だけが使っている時期だった。まだ阪神淡路大震災も東日本大震災も起きていなかった。それから25年後、世の中は大きく変わった。そのころ、今のような時代が来る事を誰が予想しただろうか。子どもたちが生きぬく未来の世界も、きっと私たちの知らない程に大きく変化した世の中にちがいない。今とは違った問題を解決しなければならなくなっていることであろう。だからこそ、「今の時代を生き抜く力」ではなく、我々大人が未だ知らない「未知なる未来を生き抜く力」こそ、子どもたちに育てていく必要があるのではないだろうか。

そんな子どもたちを目指して、平成25年度は、全ての教育活動を通して、語り合いの活動をくり返すことで目標を実現しようと取り組んだ。研究、生徒指導、人権教育を柱

にして、子どもたちの変容を見ることが出来てきているが、まだまだ小さな変化に留まっている。

そこで、平成26年度は、さらに大きな飛躍を目指して、全ての教育活動で、次のようなポイントを押さえて、取り組んでいきたい。

1. 子どもたちの実態分析を基に、具体的な行動目標を子どもの姿で設定する。
2. 具体的な行動目標を、子どもたちにも分かる言葉で示す。
3. 具体的な行動目標に、全教職員一丸で取り組み、活動の後には必ず振り返り、子どもたちにも評価を返し、目標が実現するまでやりきる。
4. 具体的な行動目標の実現のため、状況を把握・分析し、しっかりと計画を相談しながら立て、全教職員で共通理解をして取り組む。
5. 具体的な行動目標の実現を目指し、お互いを認め合ったり、お互いに意見をし合ったりすることで、自分たちも成長できる教職員集団に育つ。

教育活動は、子どもを変えてこそ意味のあるものである。平成26年度は、具体的な子どもの姿で行動目標を設定し、全教職員一丸となって実現目指して取り組んでいきたい。



2014年04月01日